

Title: 「明日はどっちだ」




徳田 輝太  
Keita Tokuda 1985年  
生まれの食べざかり。世界という大海  
へ向け、今、旅立とうとしています。

## ● 最近のエントリー

- マレーシア\_2号  
(2010.04.29)
- マレーシア\_22  
(2010.04.13)
- マレーシア\_21  
(2010.04.13)
- サバ4 - シンガイキナバル  
タバンとコタキナバル  
(2010.04.07)

## ● アーカイブ

- 2011年04月
- 2011年03月
- 2011年02月
- 2011年01月
- 2010年10月
- 2010年09月
- 2010年08月
- 2010年07月
- 2010年06月
- 2010年05月
- 2010年04月
- 2010年03月
- 2010年02月
- 2010年01月
- 2009年12月
- 2009年11月
- 2009年10月
- 2009年09月
- 2009年08月
- 2009年07月
- 2009年06月
- 2009年05月
- 2009年04月
- 2009年02月
- 2009年01月
- 2008年12月
- 2008年11月
- 2008年10月
- 2008年09月
- 2008年08月
- 2008年07月
- 2008年03月
- 2007年11月
- 2007年10月
- 2007年09月
- 2007年06月
- 2007年05月
- 2006年10月
- 2006年09月
- 2006年08月
- 2006年07月
- 2006年06月
- 2006年05月
- 2006年04月
- 2006年03月

## ● ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校  
NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE
**OLYMPUS**  
Your Vision, Our Future

RSS 2.0

10.04.29 明日はどっちだ &gt; 2010年04月 アーカイブ

## マレーシア\_23

とうとうこの時が来てしまいました。

あれは2008年 8月  
「2年後にはFW5期生がくるのか。。違ひな。」  
と思っていた懐かしきあの時。

しかし現在 2010年 4月

FW5期生、タイの情勢により急遽予定をマレーシアに変更して

本日ベタリンジャヤ到着です。



さすがに学生が10人だとこの家もやたらとぎやかになります。

男子部屋はほぼ満ベット。  
おそらくこの埋まり具合は怒涛の1期生以来ではないでしょうか。



FW5期生のみなさん

施設の近くにマレーシアで一番おいしいであろうチャーシュー飯があります。

矢野くんだけが知っていますので、

ぜひ食べたいと思ったそのあなたは、彼に聞いてぜひ食べてください。

絶品のおいしさです。



ミーティング



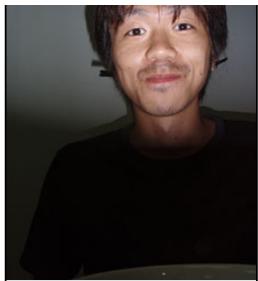
5期生たちは自炊派なのか、それとも胃腸にダメージが蓄積されているからか、初日からさっそく自炊してました。

そうめん(ネギ・ショウガ付き！！！)と サラダ

そうめんにネギなんて、、、いったいいつぶりのコンビネーションでしょうか。香りがたまらなく和で良いですね。

おいしかったです、ごちそうさま。





この施設はやたらリラックスできると噂の場所なので、ゆっくりと身体を休めて回復して、次の撮影に備えてください。

ようこそ、ベタリングジャヤへ！

カテゴリ：

post by 徳田 敏太 | 日時: 2010.04.29 | パーマリンク | コメント(0)

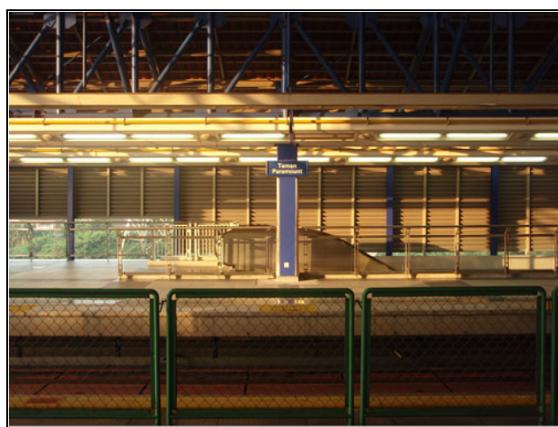
明日はどうだ？ > 2010年04月 アーカイブ

10.04.13

## マレーシア 22

せっかくマレーシアにいるので、F1へ。

まずは地元のタマン・バラマウントからLRTに乗り、KLセントラル駅からシャトルバス。



マレーシアにはペトロナス(PETRONAS)という国営石油会社があります。

そう、あのツインタワーの名前も

ペトロナス・ツインタワー。

その国営企業が、あの有名車メーカー、

さらには、あの有名ドライバーまでも。。。。

やります。

1999年からはマレーシアでも  
セパン国際サーキット(Sepang International Circuit)でF1が開催されています。  
毎年だいたい4月の最初の週。



会場に着くと。

がらり。

まだ一向に始まる気配がありません、むしろ人もぜんぜんいません。

予定表を見ると、2時からとな。

イス席はちょっと高かった為、

C2という見晴らしの良い丘に屋根つきの場所のチケット。





2日目はレース。

会場は1日目とは違って、たくさんの人のだから。  
しかし3分の1くらいの人は海外の人たちで、  
マレーシア人はいはずへ。。  
まるで他の国に来たかのような風景です。

フー—————ッ！  
フー—————ッ！！ ウウンッ！！





デジタルズームにしてコンパクトカメラで写真を撮っている自分とは大違いの  
いったい何百ミリあって、明るいんだか、  
という大砲持った人もたくさん。

いやいや、このつんざき音はテレビじゃあ感じませんね。



仏教寺院。

茶食主義の店があって、昼時には働いている人がたくさん食べに来ます。





チエンパカ・ブッディスト・ロッジ(Chempaka Buddhist Lodge)

家から2つ先のケラナジャヤ(Kelana Jaya)駅から歩いて15分くらい。

この日はちょっと早い華人のソンクランでした。

水掛け祭りで知られるソンクラン。

タイではやたら盛大にやるらしいですが、

もちろんここでは、わりとこじんまり。

ちゃんと水掛けエリアも決まって、90%は子供だけ。

だから、不意に水かけられちゃう心配もここにはありません。





お坊さんたちが人々の首筋に水をかけてあげていました。  
しかし、  
やはり華人の仏教人口がそんなに多くないんでしょう。  
めちゃくちゃに混むというほどではなく、  
どこかの地区の小さいお祭り。  
といいたくらいいの規模でした。



お坊さんの前に行く前は、この像に水をかけてました。  
元々、ソンクランは新年のお祝いで仏像などを清めたり  
掃除をしていたらしいので、  
おそらくその名残でしょう。



毎年FWがカンボジアに入る時にあるあるお祭りもこのたぐいでしょうか。  
同じように顔に白い粉付けてました。





こちらP1、ベタリンジャヤ施設。

今年も着々と学生受け入れ態勢を整えています。

今回は調子の悪かったエアコン。

でも、ここはもうバッヂリ。  
ちゃんと涼しい風が出ますので、快眠できるはずです。





しっかり、掃除しときます。

カテゴリー：

post by 徳田 敏太 | 日時: 2010.04.13 | [パークリング](#) | [コメント\(0\)](#)

[明日はどうだった > 2010年04月 アーカイブ](#)

## マレーシア 21

マレーシア生活も今月でいったい何ヶ月経ったんでしょうか。。  
経ってしまったんでしょうか。  
こっちも最初来た時は、なんとまあFW3期生の2回目のスクーリングでしたから、  
え～と、  
2008→2009→2010・・・  
から、たくさん時間が経った。ということですか。

3期生が帰国し、ELSの本格始動して英語を勉強し、  
と思ってたら4期生が来て、これまた帰国し、卒業おめでとうございます。  
そんなこんなで、あっという間にFW5期生が出発。  
同じようなことを昨年も書いたような気がしますが、  
気をつけて、最高に旅を楽しんで。  
良い写真をたくさん撮ってここまでたどり着いてください！。

あっという間だ。。おかげなくらい。  
まだ自分の身長が約1mで幼かった時。  
1年という時間は長く、季節の移ろいもゆっくりと進んでいた記憶があります。  
暖かくなって、暑くなり、涼しくなって、寒くなる。  
どこかがっこい。  
いつからでしょうか、20代になってからか。  
1月～12月までの流れがか与一の射つ鏡のことく  
ひょう、ひいふつ！  
と過ぎ去っていくかのようです。



最近はこれまでにマレーシアをディープに旅しそぎてしまった結果、  
自分で言うのも何ですが、  
そんじょそらのどんなマレーシア人よりも  
マレーシアに詳しきる日本人になってしまいました。  
なかなか、一般人でここまでマレーシアに詳しい人間はないんじゃないでしょう。

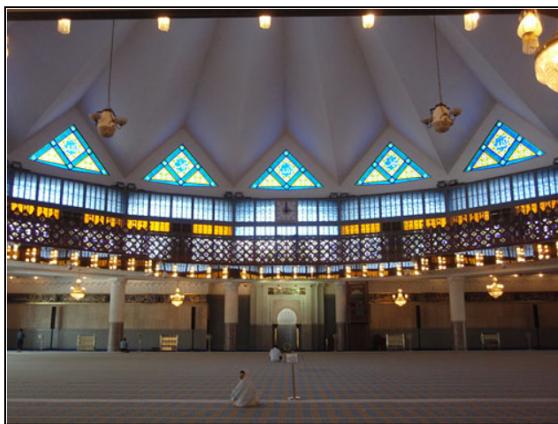


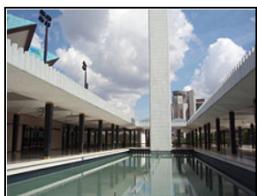
国立モスク。

お祈りの時間があるため、  
イスラム教徒以外がここに入る時は入館時間に気になされなければいけません。  
そして、服装も。  
男性はハーフパンツだめとか、女性はスカーフしてなきゃだめとか、  
肌を露出しすぎている服装だと入館できません。  
しかし、  
自分みたいな外国人はそういうルールは知りませんので、  
暑さ倍増しますが、紫色の服を貸し出してくれます。



お祈りスペースには、やたら涼しいですがイスラム教徒以外入れません。





たまたま、イスラム教美術館へ行ってみると  
なんと！写真展がやっていたではありませんか！  
信じられない、しかも有名人が！  
そりゃ、すぐに見に行きました。



ブリティッシュ・カウンシルKL

ELSを卒業して、この学校も最後のアドバンスクラスというので勉強しました。  
頭に辞書が入ってんじゃないいかと思うくらいの単語マスターがいたりと、  
やはり皆の英語力はELSの初期と比べると上級。  
しかし、まだまだ自分の英語力なんざ赤字。  
英語の勉強というやつは難しいです。





マレーシアのトイレに入ると、たまにやたら風が吹いているトイレがあります。  
『この機械から。ゴー―――っと。



なぜこのような、風送り機があるかといいますと  
マレーシア人の多くがトイレットペーパーではなく、水で処理するからです。  
これがないと床と便座、そこら中が水浸しになっているか、  
付きっきりでトイレをずっとモップかけする人がいるかのどちらか。





日本は寒いよ。

冬が来た。 雪が降った。  
春が来た。 桜が咲いた。

涼しいとか、寒いとか、  
はて?  
なんのこっちゃ。  
暑いか、じめっとならよく知っています。

もはや、こここの熱帯の暑さにかなり慣れてきてしまっている自分にとって  
四季の話などよく分からなくなっています。

今日は10度以下で、、、

10度以下っていったいどれだけ寒かったんでしょうか。  
毎日、毎年、年中無休で30度越え。  
最初は1月、12月になって気温が全く変わらないのは不思議に思いましたが、  
もはや最近はKLCCで子供たちがいつプールで遊んでいいようが  
気にならなくなっていました。。  
日本に帰って、どんどんと気温が下がっていった時、  
おそらく尋常じゃなく寒いんでしょう。  
こう。



志村くんのELSがスタート。  
アラビアンとの交流が新鮮すぎて、やたら楽しいらしいです。  
まぁ、日本じゃあはなかなか体験できないでしょう。  
十分に楽しんでおくれ。

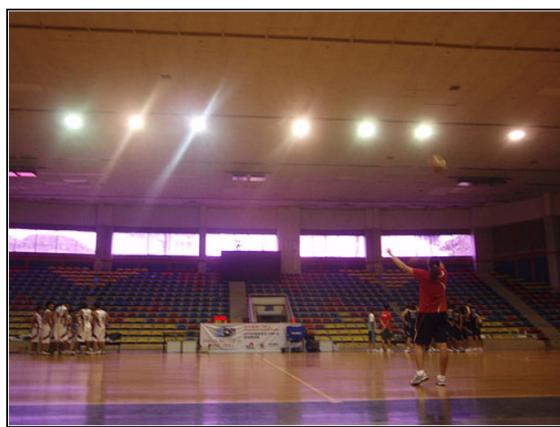
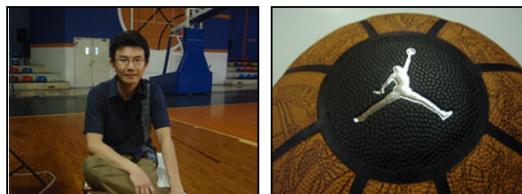
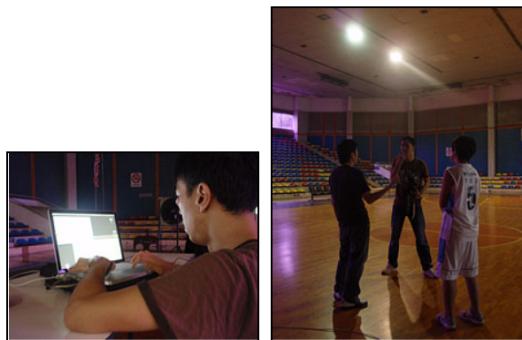


ウォンさんのアシstant。

ほんとに使えない二人だったと思います。。  
スタンドを回してとか、  
ストロボを弱くして、とかとか、  
初めて見るものばかりで、どうやっていいんだか笑。。  
できることは教材を運ぶこと、  
バスケットボールがあるから、それで遊んでシュートを打つことくらい。  
アシstantではなく、まるで見学者のようでした。

ウォンさん、次はもうちょっとましになってる。と思います。。







カテゴリ:

post by 德田 敏太 | 日時: 2010.04.13 | [パークリンク](#) | [コメント\(0\)](#)

明日はどっちだ > 2010年04月 アーカイブ

10.04.07

## ■ サバ 4 ・ スンガイ キナバタガンとコタキナバル

コタブルッから乗り合いタクシーにてコタキナバル。  
そしてバスターミナルからスンガイ キナバタガン (Sungai Kinabatagan)へ。



途中あったプランテーションの規模にはたまげました。

デカすぎです。

バスに乗ってる時に見晴らしの良い丘から見えたプランテーションは  
なんと、地平線の先までゼーーーーーんぶ、バームオイルです。  
どんなだけデカいんでしょうか。。

これから、野生のテンガザル、オラウータン、ワニだのいるところへ行くのに、  
このバームオイル率に心を碎かれ、 そして到着。



またいつものように田舎の村へ行くのである。

と、思っていたら、

なんと、そこには森林保護の立派な建物が！

その名を KOPEL。

サバ州の約30%が国立公園などで森林を伐採から守っています。  
ここ、スンガイ キナバタガンは川の两岸数キロが野生保護林や  
森林回復林になっています。

近年まで続いた伐採、伐採、また伐採。

サバ州はその伐採を止め熱帯雨林の保護に乗り出したそうです。

伐採 or 森林火災で森が無くなったところを放置したらどうなるでしょうか？？

答え、、森林は回復しません。 雑草が茂るだけです。

雑草の成長がゆっくりと生まれてくる小さい樹々よりも早いため、

その樹々は影に入ってしまって成長できません。

その他、乾期と雨期の影響が激しいので、

人の手なしには成長できないらしいです。

と、今回紹介してもらったこのリーダーであろうロスリさん聞きました。  
彼は今日本に研修に行っているらしく、今頃何を見ているのでしょうか。  
いいなー。



と、なぜか勢いでボランティアーカーというのになりました。

夕方、ボートに乗ったら川岸の木に何やら点？？

あら動物、猿です。  
夕方になると寝るために川辺の木に登るそうです。  
ロスさん曰く、  
テングザルに、なんとかザルになんとかザル。

あっ！ あれは何とか鳥だよ。

とにかく、ちょっとボートに乗っただけなのにたくさん野生動物が見れました。  
写真はないですが。。



観光客も来ます。  
ある人はキャンプやボートクルーズしたり、  
またある人は、自分と同じくボランティアになったりしてます。  
ボランティアの人は数週間から数ヶ月の人もいるとか、いないとか。。

だから、観光客たちのために村人が伝統ダンスショーをやっています。



1997年からこの森林保護所の設置準備が始まり、  
3年間の伝統文化や動物、森林の調査。  
そして2000年の6月から観光客の受け入れが始まりました。  
初年度は約600人。  
しかし、今は年間約3000人の観光客たちがくるそうです。

スタッフのほとんどが地元の村人。  
しかし、中には英語ペラペラの人も。  
なんてって、毎日欧米の観光客相手の仕事をしますから、すごいです。



そして、ボランティアが始まりました。

まず、苗木を50個入れたケースを数個。  
これをボートに乗せて森林を回復するブロックへと運んで植えます。  
森林を回復するのにも、無造作に植えたりはせず、  
計画的に区画を決めて植林をします。

あら？

いやいや、ボランティアに来たんじゃないかった。

ということで、ボランティアの人たちとは行動を別にして  
バッカームさんとともに植林をする前の土地整備の場所へ。



どこもかしこも、木がそんな大きさありません。  
慣れない自分にはどこもほとんど同じ森に見えて、  
一人だったら間違いないく遼難です。  
そんな森を一分の迷いなく進むおっちゃん。  
さすがです。  
30分以上歩いて女性たちが草刈してるとここに到着。



木はねばねばち大きいですが、鬱蒼と茂ってはいません。  
やはり、熱帯雨林を自然に近く回復するのは並大抵のことじゃないんですね。  
まるで整備された森林公園のようですね。



昼食の後、みんなで食べれるおいしい草？野菜？を採りました。  
そこら中にあるので新鮮なものを狙って、  
根元から、ぶちっ。

おばちゃんたちはさすが、あっという間に束を握ってます。  
しかし自分はちょっとだけ。  
「ほら、ケイタ、これムダ(新鮮)よ。」

この日本人にはまだまだムダの見極めも、収穫の修行も足りないようです。



男と女で働いてる場所が違うます。  
女性組は川から約1キロの場所で働いてるのですが、  
男組はなんと3キロ。  
どんなだけ歩くんでしょうか。。  
たぶん1時間以上かかるのでは。。



この日もダンスのパフォーマンス。  
毎回同じ人が踊るわけではなく、村人が交代交代で踊ります。  
そして、そこにも、泊まさせてもらった家にも子猫がたくさん。





ヤヤッさんに森を回復して実験林に連れてってもらいました。

実験林なので樹を区画ごとに分けて植えていて  
この樹々はだいたい2~3年。  
まだまだ小さいです。

「まら、この樹が大きくなったらオラウータンが食べにくくなるんだよ。」  
「えっ！ 今は食べに来るんですか？？？ 会いたいです！」  
「残念。今はシーズンじゃないんだよ。だいたい6月くらいかな。今は違う場所にいる。」

あーーーー、おしい。。。今が6月だったら良かったのに。  
野生のオラウータンなんて、なかなか見れたもんじゃないです。

多くの森林が伐採され、消滅し、  
それとともに野生動物たちの住む場所もバームオイル・プランテーションに。  
しかし、こうやって守られてるとこがあって  
野生動物たちもたくさん生きてると  
ほっと、します。



ここも旱魃がひどいです。  
数ヶ月雨が降ってないらしいですが、自分が行った数日は雨が降ってくれました。  
この雨で土地が潤い、樹々や作物が元気になってくれると良いです。

誰かが、今年はエルニーニョなんだよ。  
と言ったましたが、  
いやいや、今年はエルニーニョでもラニーニャでもない  
エルニーニョモドキだそうです。





対岸は野生保護林。

この川の中にはワニがいます。見ました。

野生動物って見るとすごいうれしいですね。  
動物園とはぜんぜん違います。  
まさに野生、ワイルドです。



男組の草刈は時間的に間に合わないので、この日も近い女性の方へ。

バランというナイフを使って刈ります。  
自分もちょっと手伝いましたが、  
これがまた、熱いの、暑いの、ハンパありません。  
少し動いただけで汗がどっ！  
これをぶっ通しで動いたら熱中症もんです。  
あっと。  
こりゃ、どうどう去年日本で太った分を痩せれるのでは！？  
と思いましたが、なんわけやありません。  
毎日食べ過ぎなので、そう甘くはないようです。

さすがのおばちゃんたちも休み休み。





ボート乗り場へと戻ると、村人たちが毎日恒例の  
バレーフットサル、セバタクロをやってました。  
やたら楽しそうです。

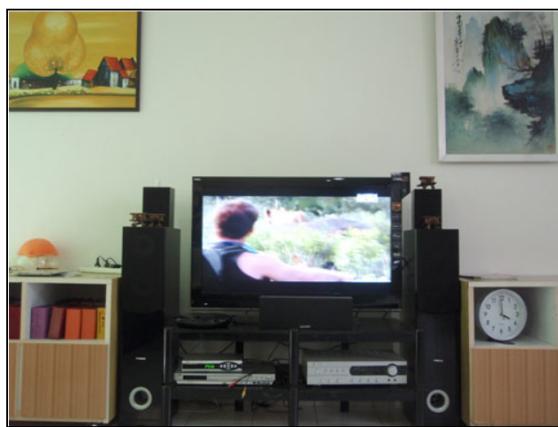
と、泊まらせもらった家までの帰り道もプランテーション。  
もうあれですか?  
マレーシアでプランテーションを見たくない。  
そんな考えがそもそも間違いなんでしょうか。



そして、朝8時すぎに道路にてバスを拾ってコタキナバルへ。

コタキナバルでは華人宅へ。

この差はなんでしょうか。  
8部屋以上あるでかい家に、ホットシャワー、クーラーに薄型テレビ。  
アニマルな番組を見ながらふと思いつます。



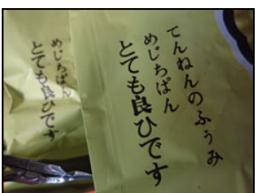
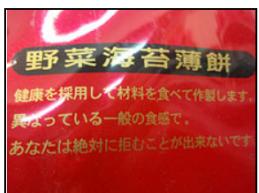
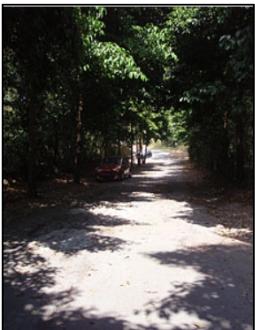
キリスト教の結婚式。  
北京語と広東語でまったく何言ってるかわかりませんでしたが  
きっと良い結婚式だったのでしょう。  
お幸せにです。





コタキナバルの滞在時間はやたら短かったので  
ずっと行きたかったサバ・ミュージアムへ。  
サバの少数民族の歴史や写真、資料などから、  
各民族の伝統的な家もあって、もりだくさんです。  
普通の人なら、ぱっ。としか見れないでしょう。  
かいわい。  
自分はここで数時間の時を過ごしました。

泊まさせてもらった人も  
「えっ？ さすがに長すぎじゃない？？」って。  
いやいや、深いですから。



そして、KKからKLへ。  
サバの旅は終わりました。  
予想だにしなかったことをほんとにたくさん学びました。

まさに、深い、です。

エアアジアって赤い機体だけじゃなく、青い機体もあったんですね。





今回も泊まさせていたいたみなさま、テリマカシ、ありがとうございました。

さてさて、次はどこへ行こうか。。

カテゴリー：  
post by 徳田 敏太 | 日時: 2010.04.07 | [パーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#)

明日はどうだ? > 2010年04月 アーカイブ

### サバ 3 ・ コタブルッ

クダットから乗り合いタクシーにてコタブルッ。



東洋のカウボーイ、バジャウ族で知られるこのコタブルッ。  
タクシーから降ろされた場所に馬の像が!  
こりゃカウボーイ押しだすね。

紹介してもらったあっちゃんのロパートさん。  
でもこの方はバジャウではなくて、  
カダサン族でしたので、また紹介してもらい、  
イスマイルさん登場。  
彼曰く、バジャウはジョホールバルらへんから来たそうな。

眼鏡をかけてるほうがイスマイルさんです。  
今回はこの方の家へおじゃまします。



ホントはここコタブルッではサバで一番良いとされる  
タム(Tamu)というマーケットへ行きたかったのですが、  
残念。

時間が合いませんでした。  
いろんな人から、タムは行ったほうが良いよ！ タムは行ったかい?  
と聞かれるので、さぞエキゾチックマーケットなんでしょう。  
若い人はともかく、あっちゃん、おばちゃんたちは  
未だに物々交換をしているらしいです。

で、タムではなく普通のマーケットで魚やら野菜やらを購入。





バジャウ族のケーキ。  
油で粉をカリッと、中はふんわり揚げた甘いお菓子です。



到着は夕方。タウングシ村(Kg. Taungsi)。  
タウングシの意味は壺で、いつかの昔の壺が出土してこの名前になったそうです。

この時間になると米を狙って雀のような小さい鳥がたくさん飛んできます。  
人対鳥ゲーム。

イスマイルさんの義母であるおばあちゃんも田んぼをもってるので、

ひょうっ！！  
ふあっ！ ふんっ！ しゅうっ！ しゅっ！！

ひもが小屋から伸びていて、それに布がひらひらしています。  
小鳥たちが空から田んぼに降りてきそうになったら、それを引いて、  
びっくりさせて追っ払ってました。

あーーーーーあ ひょうっ！！ ふああっ！！

あんたもやんなさい。

と言われましたが、また今度ねおばあちゃん。



ここコタブルッの田園はサバーの面積を誇っています。

なんせ広いので、田園のいたるところに小さい小屋が建ってて  
ここでも小鳥を追っ払ってました。  
視界のほとんどが田んぼのこの場所。  
なんとまあ、のどかでゆっくり。良いところですね～。



夜食に食べさせてもらった葉っぱに包まれたバジャウ族伝統の食べ物。

ボルネオ島の人たちはタパイというお酒を飲むのですが、  
ここバジャウの民はずっと昔からイスラム教徒。  
お酒やアルコールは口にしないはず、  
しかし、なぜでしょう。  
この明らかにアルコールの甘い味がするこの食べ物。。  
発酵の仕方がおそらくタパイと似てるのでしょうか。明らかに酒が入ってました。。



そして、朝。  
これからもキナバル山が綱麗に見えます。  
でも朝だけなんですね。  
星から夜になるうちにだんだんと雲に覆われてしまいます。

もちろんこの時間も、小鳥を追っ払う時間です。  
広い田園にぱつぱつと人影。  
小屋に入りながらひもを引く張る人。  
歩いて接近戦で追っ払う人。

しゃあっ！！ 忙あっ！！ 忙あっ！！

と、声が聞こえます。





イスマイルさんの知り合いの人の家へ。

ないやら、ここでも伝統衣装を着ることに。  
いろんな色があると思ったら黄色だけらしいです。

男

ベルト — パトウラン(Butulan)  
帽子 — タンジャック(Tanjak)  
シャツ — バジュ・サンピッ(Baju Sampit)  
ズボン — セルuar(Seluar)



女

頭に付ける飾り — セリンパック(Serimpak)  
シャツ — バジュ・サンピッ(Baju Sampit)  
スカート — カイン・ペランキッ(Kain Belangkit)  
指に付けるやつ — クク(Kuku)  
首にかける飾り — メンダポン(Mendapon)  
イヤリング — アンティン(Anting)



昔はこの装飾品全部がブロンズできていた、たいそう重かったそうな。  
今は木でできるんでしょ？  
すごい軽いです。  
でも、全部の装飾品をそろえるのにけっこうな額のお金がいるそうで  
なかなか、みんながみんな持っているわけではないそうです。

ところで、この装飾品はどこから買ったんですか？

イラン族から。



ということで、イラン族が多く住む漁村へ。

バジャウ族の多くが農業をやる一方、イランは漁業中心。  
この時間は漁も終わっていて、村は静まっています。



イランの文化や民族衣装はほぼバジャウと似ています。  
しかし、  
バジャウ・イラン合わせても  
このわっちゃんが最後の唯一の装飾職人です。  
っても、この人も誰に教わったわけではないですか。  
もしわっちゃんがいなくなったら、、、消滅ですか？？  
それとも必要だったら誰かが作るんでしょうね。



イランは織りの技術でも知られていて、バジャウの衣装とはちと違います。  
この工場には約10人の女性たちが働いているそうです。

っても、こんな複雑な織、どうやって織ってるんでしょう。





お葬式。

夜、関係者が近かった人が集まって  
コーランにあるヤースィーン(yaasin)を詠んでました。  
「やーすいーん？ってなんですか？」 コーランの一番重要な場所ですか？？」  
「いいいや、コーランは全てが大事な場所なんだ。」  
「えっ？」 ジャあなんですか？？」  
「ん~、ハート・オブ・コーランとでも言えるかな。」  
だそうです。  
なのにやら、コーランの裏の中らへんにありますらしいです。  
これを30分くらい唱うようにイマームがリードして  
ゆらゆら動いて詠んでました。

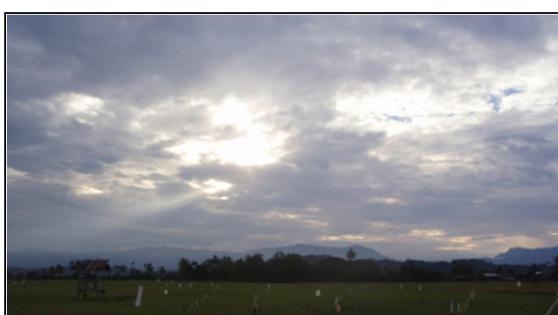


イスマイルさんの義母さんの田園を小鳥から守るため自分も、

ひよおっ！！ 忙あっ！！ 忙おあっ！！

ってやってました。

小鳥が空から着陸しそうになるところを  
動きを読んでびっくりさせるのとか楽しいです。  
でも、小鳥たちも慣れているのか、しぶといのもちろら。





あれ？  
そーいえば。

パジャウのカウボーイを見に来たのに、一回も会ってない！

どうやら約20年前までは、まだ車がぜんぜんなくて基本の移動手段が  
自分の足か馬、水牛。  
ところがどっこい。  
近年になり車が入ってきてからというのも、  
馬や水牛に乗る必要もなくなりじわじわと乗る人はいなくなりました。とさ。

そこらへんに馬が力なく憩がれているのは見ますが、  
馬にまたがって厩戸と駆けるカウボーイはいすこへ。

たまたま馬にまたがった人を見ましたが、  
ただ馬を運動させてただくらしいです。  
なんど普通は車に乗りりますから。



パジャウ・バラン・メイキング



この工場ではパジャウ族伝統のナイフを昔ながらの方法で作っています。



こう、炭を使って、ぎーこーぎーこーって風を送って

トントントンって叩いてました。





続いて、パティックの作業場。

パティックの作業場には前にも一ヵ所行きましたが、ちょっとデザインが違います。  
いちおうサバの各民族のデザインとかを取り入れているそうです。



夕方はおばあちゃんと自分の連携プレーで小鳥を追っ払いします。

二人で　ふわっ！　ひょあっ！　やってれば小鳥に福を食べられることもありません。

しかし、おばあちゃんから一言。  
「だれも継がないよ。」



少し行ったところにも広い田園。  
まだ準備中でしたが、新しく耕作するんでしょうか。  
なんせここも水不足が深刻。  
自分が行く前まで全然雨が降らなかつたらしいです。  
が、なぜか運の良い日本人。  
毎夕雨が降ってくれました。

これで少しでも土地が潤うといいです。



サハに来てから、肉より圧倒的に魚を食べる機会のが多い気がします。



と思ってたら、この日もすでに夕方。

イスマイルさんの心はまだバジャウのカウボーイです。  
たとえもう、移動に馬を使うこともなければ、  
馬がそこら中にいるわけでもない今の時代。

それでも彼は馬に乗る自らの伝統を残そうとしていました。  
「私の子供を馬に乗せてあげたい。」  
いろいろと問題は山積み。  
しかし方法は後。  
その残そうとする思いが最初。  
「ケイタ、いつかまた来てくれ。その時は君は馬に乗せてやる。」  
バジャウの心は熱いです。  
楽しみにしてます。



コタブルッ → コタキナバル → スンガイ・キナバタガン へ。

続く。

カテゴリ :  
post by 徳田 敏太 | 日時: 2010.04.07 | パーマリンク | コメント(0)

明日はどっちだ > 2010年04月 アーカイブ

## サバ 2 · クダット



キナバル山の村、クンダサンから山を下り クダット(Kudat)へ。

コハディさんの知り合いがKLへ行くため。  
車で送ってコタキナバルまで送ってもらいました。  
サバFMを開きながら、、くねくねと、、下る。、道。  
酔いました。。  
車酔いするなんつぁいつぶり。

それと、コタキナバル暑すぎ。  
涼しいキナバルの村からマレーシアが熱帯である現実に引き戻されました。



乗り合いタクシーにてクダットのミソンブルー(Misopuru)のミニヤック村(Kg. Minyak)へ。

今回泊まるのがここ↓↓



ここクダットにはルンゲス族(Rungus)。耳に聞こえる音はルグス。

ミニヤック村の人たちは多くが農民です。  
ここでの米畑はそんなに大きなくて、収穫も昔ながらの手でやってました。  
日本なら根元から刈ると思いますが、  
ここでは稲穂だけ。  
おばちゃんたちが握ってるのはヒンガマン(Lingaman)です。  
それを使ってさくっと収穫します。



最初は初めてやる作業なので、おそるおそる稲穂の収穫を手伝ってましたが、  
これかまた。

まるで前からずっとやっていたかの様です。  
自分でも不思議なくらいすぐに上達して、  
地元のおばちゃんたちと同じくらいの摘み取りスピード。  
さくっ、さくっ、さくっ。っと。  
そして、楽しいのなって。  
日本人が来ていきなり手際良いもんだから、  
おばちゃんたちは笑ってました。  
あんた、やるわね。





彼らの主食はもちろん米。  
泊まった家の母ちゃんは赤い米(ヒル・ライスと呼んでました)  
と白い米をミックスして食べてました。  
昔の人はみんなこの赤いあ米食べていたそうです。  
健康に良いんだとか。

毎回どこへ行ってもたくさん食べさせてくれます。  
ここでも、この白い入れ物ほとんど全部が自分用です。  
ありがとうございます。

と、マレーシアのボードゲームのケロム(Carrom)。



朝、ここでもおろしく乾期だと言ってましたが、

約2ヶ月ぶりの雨。

外に出れないためルンゲス族の装飾品のピース作りをしました。

デザインの意味はよく分からなかったですが、

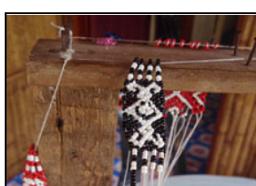
一番伝統的なデザインだそうです。

教えてもらってる人はさすが手際が良いです。  
だってあたし毎日やってるし。って。

白2つに黒1つ。

はい、それを通してこっちに繋ぐ、、と

ややこしい作りでしたが、数時間かけて完成。





オランアスリの火起こし櫛にドゥサンの横笛、ルンゲスのビーズ。  
アイテムが地味に増えています。



泊まっているとこのお母ちゃんはキリスト教のシスターで  
看護士として地元密着のクリニックで働いています。

ここには医者がいないため、初期鑑定でしょうか、初期治療でしょうか。  
それしかできません。  
急病の場合はいそいで街の医者まで運ぶそうです。  
月2回だけ街からお医者さんが来て主に妊婦さんを診断して、  
それ以外の普通の日は、1日20人くらいの患者さんが来ます。



ゴング村へ。



泊まっている村から車でちょっと行ったところに  
サバにもなせだかっこだけ、村中ゴングだらけのゴング村があります。  
鉄とアルミで作られるこのゴング。  
村のあちらこちらで、トンテンカンの音が聞こえます。

ルンゲス語ではサンダガウ(Sandagau)。

ちょっと弾いてみてと言うと、  
すぐ、美しい音とともに  
目の裏にルンゲスの村の楽しさが見えるようです。  
あ~きれい。

金色のは、クリンタガウ(Kulintangau)





ちょっと大きいゴングは、タバグ(Tavag)

竜の装飾があるのはポンボ(Pompo)



村で一番大きいゴングは直径5~6mあります。

でも、もちろん演奏用ではなくて飾りだそうです。

とにかく、この村全体がゴング作りであります。

そして、演奏を頼んだ村の人みんな演奏出来ましたから、

まさかみんなあのゴングを奏でられるんでしょうか。。



ほけ～～、っと座って眺めてる景色です。

キナバルの風とは違いますが、ここの雰囲気も素晴らしいです。



マリックさん。

いろんな物を作ってて、米、はちみつ、ココナツ、ゴムの木、その他。

乾期で村人の多くの米が干される中、

マリックさんの米は元気よく育ったらしいです。

ほら、見て。良い米でしょ。

はちみつの箱一つで月3ORM。

これが2層になってると1層のがいたるところにあります。

あれは蜂たちと友達だから刺されないんだ。と。

ゴムの木はだいたい4～5月のシーズンは葉がほとんど落ちてダメらしいです。

水っぽい樹液が出てくるだけ。



米畑へ。

ここでも手で稲穂を摘み取ってました。  
稲穂摘みにはまった自分は、もはや地元の手つきですね。  
炎天下の中、もちろんすごい暑いですが、  
下手したら1日中やってられるかもしれません。  
稻穂はやたら集中できます。

しかし、集中して稲穂を摘み続けるもの  
村を案内してくれてる人が

「ケイタ！ 暑いだろ？ から帰るよ！」  
「いいいや、ここは訪問者の意見を聞くべき。収穫を続けたい。やらう乐しい。」  
「でも暑いでしょう？」  
「暑いけど、続けたい。楽しいから。」  
「でも、暑いでしょう？」

もはや、暑いのは自分じゃなくて案内してくれてる人で  
ほんとはすうっと収穫してたかったですが、  
昼食へ。





マリックさんの漁へ付いて行く事に。

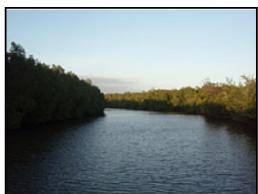
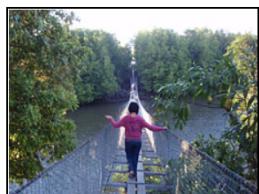
途中あった、昔の油井。  
ここ村の先祖はこの油井を崇めていたんだとか。  
でもなぜ？？



乾期でいつもよりもかなり干上がったマンゴローブ林。  
それでも地面はまだ少しぬかるんでるので、  
マンゴローブの足をつたっていきます。  
あの細い足は意外に丈夫です。  
ここではタゴム(Tagom)という貝を獲ります。  
ひょこ、と地面から頭を出した貝を見つけるには熟練が必要ですね。こりゃ。  
自分は3つしか獲れませんでした。



市場では4つで1RM。 うまい。



吊り橋を渡って漁へ。

マリックさんはバジャウ族の女性と結婚したらしく、  
猫の目を見てその日の海の状態を見る技をバジャウの父から学びました。  
他のレンゲス族の人たちは、んな馬鹿な。  
と最初は言ってましたが、だんだん信じたそうです。  
猫の目が大きかったらとか、小さかったらとか、  
どうやら満ち潮、引き潮が分かるらしいです。

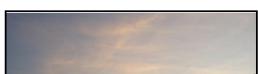
この日はどっちだったんでしょう。  
夜また漁するって言いましたから、きっといい感じの日です。



ふわふわの砂浜はすでに夕陽に染まっていました。  
マリックさんの投げる投網もオレンジの光に染まり、  
地平線に近い陽ほど世の中で綺麗で、景色を変えてゆくものは少ないので。  
自らの足を砂に置けば、そこだけ水が抜けて大人気分。  
波の音と一緒に歩く砂浜のこの短い時間。  
何度見ても夕陽が綺麗な事を思い出させてくれます。



太陽ってこうやって水平線に落ちていくんですね。  
知りませんでした。





伝統式装を着ました。

帽子はシガル(Sigal)、シャツはバドゥ(Badu)。  
たすきはサンダイ(Sandai)、腰巻きはホコス(Hokos)。



帽子に使ってる布の柄です。  
4人の人とトカゲが2匹。

で、この意味はなんですか?  
って聞いても分からぬですよね、そりゃ。  
自分もたぶん日本のこういう柄とかたぶん知らないですレ。



早朝、近くのルングスマーケットへ。

感動したこと、  
ルングスのおっちゃんたちが、ルングスの帽子を自然に被ってました！  
なんと！  
こりや、渋い。  
あまりにも自然に被ってるので、それが逆に素敵すぎ。



「おっちゃん、なんでその帽子被ってるの？？」

「いや、だって、おれルングスじゃん。」

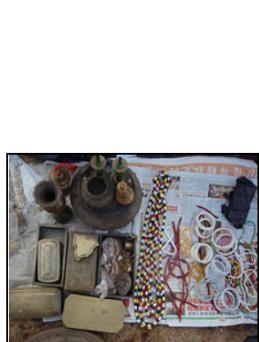
なんと！？

おれはルングスだから、ルングスの帽子被るでしょ、そりゃ。って。

そーですね。ルングスなら被りますよね。

カッコすぎ。

もちろん若者は被ってませんが。。。。



そして、クダット終わり。

コタ・ブルッへ続く。

カテゴリ：

post by 徳田 敏太 | 日時: 2010.04.07 | [パークリンク](#) | [コメント\(0\)](#)

[明日はどっちだ](#) > 2010年04月 アーカイブ

## サバ 1 ・ クンダサン

マレーシア半島から東へ。

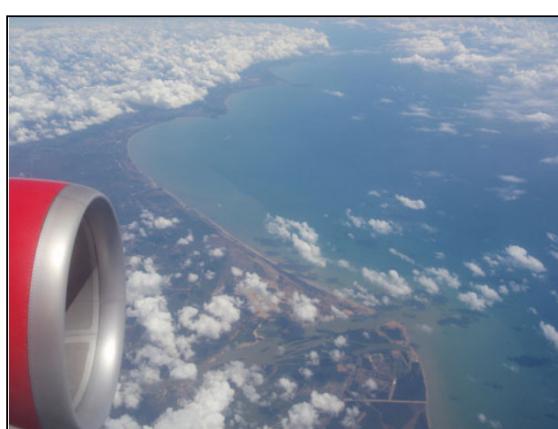
世界で3番目に大きいといわれるボルネオ島に上陸。

今回はサバ州。

主立った民族だけで32民族、細かく言えば52とか72民族とかいわれてます。

言葉もたくさん。

サバひろし。





今回も人を紹介してもらい、いろいろとアレンジをしてもらいました。

ジェフエリーさんと、コハディさん。

彼らはこのサバを知り尽くしているようだ

「たった数週間じゃサバは回れないよ。

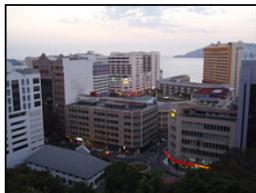
だけど、限りある日数でこのサバの名所を紹介してあげる。」  
とのこと。

KLからコタキナバルへ着いて直接彼らに会ったので、

コタキナバルの街はそんな見れませんでした。

が、

こりゃ、他の街と比べて確かに都会です。



ということで、1カ所目。

コハディさんの地元はキナバル山の麓。

ドゥスン(Dusun)族のいるクンダサン(Kundasang)のシニシアン村(Kg. Sinisan)へ。

ここは東南アジア一高い山、

キナバル山(4095m)の登山口から少し行ったところにある村です。

コタキナバルから車で約2時間、到着すると寒い！ 寒いっ！！

なんと！？

マレーシアにいて寒いなんて、どーいうこと？？

と思うと標高1200mだそうで、まるでオバールかどこかの山村へ来たかのよう。

この村は伝統的な音楽や踊りでも知られていて

ちょうどこの時はKLからのお客さんが来てて、子供たちが演奏してました。

「ティンギ ティンギ～ グヘーン キナバル～～～♪」って、

たっかい、たっかいキナバル山の意味。

聞いてるだけでキナバル山が頭に描かれていきます。

なんと、ほんわかミュージックでしょうか。

シンボトン。雅楽の笙みたいですね。





正直誰が地元の人で、誰がKLの人か全く分かりませんが、  
踊りの時にやたら鳥のように翼を羽ばたかせて舞っていると思ったら  
どうやらあれは、  
鷹の舞。

昔々あるところに、稻を育てているおばあちゃんがいました。  
毎日、毎日、ツバメの小さい鳥たちにおいしい稻を食べられてどうしたのか。  
空を見上げると、そこには鷹が気高く飛んでいます。  
あ、小さい鳥は鷹を怖がるんだ。  
そう思ったおばあちゃんは、自らの手を鷹の羽ばたきに合わせ踊ったそうな。



朝。  
まだ夜が残る時間に泊まらせもらっているジミーさんとともに  
キナバル山の見える丘。^。

とわいでも、寒いのなんのって。  
いや、日本では、  
そうでもないでしょうか。 15度くらいらしいです。  
マレーシア慣れしている自分には凍えそうです。



急な丘を登るにつれて朝が始まっています。

雲に半分顔を隠したキナバル山は、  
陽光を受け始める瞬間に晴れ渡り、その雄大な姿を見せてくれました。  
なんと、まあ神々しい山でしょうか。  
～云々～

ぱーっと、移ろいやく美しい景色に見とれると、  
朝日が昇る彼方から風が走ってきます。おそらく気持ちいいです。  
あれ?  
たしか、自分も空飛べたんじゃなかったけ?  
キナバル山へ飛んでいこう。  
とも思わせるほどの風。

ここがマレーシアだとは本当に、ホントに信じられません。



先祖たちは言った。  
「我らドゥスンは死んだ後、魂はキナバルへと上る。」



この道は日本軍がボルネオ島に上陸した時に  
コタキナバル～サンダカンの道を建設した時に造った軍道です。  
昔は車ではなく馬しか通れなかつたらしいです。

ちなみにこの道が出来る前は  
村人はここで穫れる煙草と海岸のほうの塩を物々交換するために  
1週間にらい歩いて行ったそうです。  
途中、首狩族であった彼らは他の民族と会ったら、、、と思うと大変でした。



朝ご飯にはロティチャナイ。  
インド系の料理。  
しかし、ボルネオ島のサバ・サラワク州にはインド系がすごく少ないと  
味がマレー半島のロティチャナイとは全然違います。  
もっとこう、小麦をそのまま水とこねて作ったかんじです。

まったく、この清々しい朝はなんでしょうか。  
やっぱり気温が違うと朝さえもさっぱり。



早朝収穫した新鮮野菜を街へ送る準備をしてました。  
なんせ、このおそらく20度の気温。  
野菜もそりゃ元気。  
KLにて毎日買う野菜たちとは大違いのフレッシュ感。  
ああ、そういうのは新鮮野菜とはこんなにもおいしそうだっただけ。  
ど、いつもしなった野菜を買ってるので忘れてました。



サバ州の旗もキナバル山。

ここ、クンダサンでは涼しい気候を利用して  
約20種類の野菜が作られているそうです。  
KLもこれだけ野菜がおいしそうならいいのに。





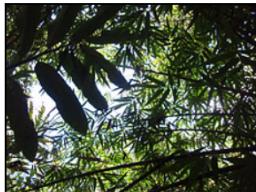
ブーゲンビリアは今が満開の季節らしく、やたらキレイ。  
あ、  
これもだ。  
花さえも半島や暑いことは比べものになりません。。  
気温とはすごいですね。

クンダサンは基本山なので、斜面を利用して耕作をしています。  
数十年前までそこら中森でこんなに畑は多くなかったそうです。  
民家も数十軒。  
ところがどっこい、近代化の波はだれにも止められないようで  
谷底の川周辺を除いて、いたるところに畑と畑と禿げ山。



今のシーズンはおそらく乾期。  
約4ヶ月間雨が降っていないそうです。  
歩いてみるとものすごくよく分かりますが、土がバキバキのカラカラ。  
さすがに、雨が降ってほしいです。





谷底の川はキナバル山からの水。  
冷たくて、ひやっとして気持ちいいです。

昔の人は竹で家を建てたり、今も楽器には竹を使ってたりと、  
彼らにとって竹は重要なものの。  
だから自分の竹林の目印に赤い布を付けてます。  
もし持ち主の了解なしにこの赤い布を越えて竹を櫻ると、、、  
あれです。  
そりゃ、だめってやつです。  
イスラム教徒に改宗した彼らもちょこちょこと昔の風習が残っています。



傷口に塗ったら良い何やらの実。



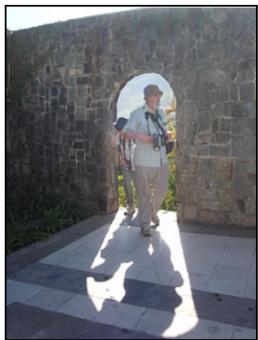


クンダサンには戦争の後があります。

デスマーチ・サンダカン死の行進。

1945年、イギリス兵とオーストラリア兵の1000人以上が  
劣悪な環境の中日本軍に数百キロ歩かされ、  
虐待、強制労働、衛生環境の悪化、栄養失調などにより、  
最終的には途中脱走した6名を除く全員が亡くなりました。

その戦争記念公園がここにあります。



夕方、谷底の川へ行くと、  
あの楽器を演奏してた子供たちが泳いでました。  
っても、間違いなく冷たいし、寒いです。  
さすがの子供たちもガタガタ・・ガタガタ。。

帰り道、日も落ちて辺りはすでに薄暗いなか、  
楽器に使う竹を担ぎ、やたら急な斜面を裸足身軽にで登るこどもたち。  
やります。地元っ子はやはりすごい。





先祖たちは言った。

「キナバルはいつも私たちと共にいる。」

キナバルは私たちが何をしていても、どこへ行っても、いつも見守ってくれている。

キナバルは私たちの全て。」

ドゥスンの民はいつもキナバルを父のように慕っていたのでしょうか。

しかし、今の彼らはイスラム教徒。

聞くところによると、今はキナバルには行かず天国へ行くらしいです。



クンダサン村からミニバスを乗り継ぎ  
ルアンティ村(Kg. Luant)のタガル・リバー(Tagal River)へ。

えへっと、タガルの意味はたしか

もう魚種っちゃだめ。

の意味だった気がします。



フィッシュ・マッサージとか聞いた事がある人もいると思います。  
あのちっこい魚がくすぐったいくらい、ちびちびと角質を食べてくれるやつです。

ところがどっこい、  
この魚はそんな小さい魚ではありません。  
デカイ！です。

ちょっと小さい鰐のようなこの魚。

元々こんな魚ではなかったのですが、  
オーナーがここの魚を訓練して出来るようになったんだとか。



フィッシュ・マッサージスパに飽きたら  
これも良いかもしれませんね。





サバのお茶畠。



毎朝8~12時にお茶摘みするようで、到着がちょっと遅かったです。

全部で12区画あるこのお茶畠。  
1年中収穫できるため、1区画を1ヶ月単位に分けて収穫をします。



ここにも、ケンダサン死の行進の記念碑がありました。



おばちゃんと一緒にミニバスが来るのを待って、  
一度ラナウ(Ranau)へ行き乗り換え。

ここにはフィリピンから来た人たちがやたらいました。  
雷雨気分が明らかに半島の田舎とは違います。  
ちなみに、クンダサンより少し標高が低いこのラナウ。  
もうすでに、清々しい風は吹いていません。  
村人が言ってました。  
あの風と気温はクンダサンだけなんだよ。って。



伝統音楽で知られているここクンダサン。  
そりゃ楽器職人もいますね。



この人。  
師匠はいないらしくて、全て自己流で作ってます。  
手際よくキーボードを頬りに音程を合わせていって  
奏でる音楽もプロ。  
マレーシアでもちょっと名のある人らしいです。



子供も、ありゃ身体にしみ込んでるんでしょう。  
「ティンギ ティンギ～ グーナン キナバル～♪」  
をやってました。





いろんなところから頼まれて楽器を作ってるらしいです。  
この時は木琴ならず竹琴と、ソンボトン。

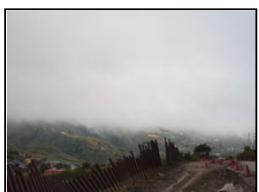
自分も横笛をチャレンジしましたが、  
まったく低音が出ず。  
ひゅーーー、ふーーーーーー、すーーーーって  
息が竹の中を通っていくだけ。

と思ってたら、横笛もらってしまいました。  
ありがとうございます！  
練習します。  
きっと日本に帰ったらキナバルの音楽も奏でられることでしょう。



毎日、一刻と同じ表情を見せないキナバル山。  
この日の朝は雲に覆われていました。

しかし、朝ご飯を食べてると  
みるみるうちに快晴。



と思ってたら、移動です。

さよならキナバル！ 登りたかった！！！！

突然ですが、ドゥスン語。カタカナで書くため実際使う時は発音に注意です。

ポンシコー → ありがとう  
ミヤガル → どういたしまして



ポンシコー！ キナバル最高！

クダットへ続く。

明日はどっちだ > 2010年04月 アーカイブ

10.04.01

## アシスタント

ただ今クアラルンプールのバスケットコートにてウォンさんのアシスタント中です。

旅しかできない便えないアシスタントですが

ウォンさん、志村くん、徳田の3人で撮影をしています。

